

HSバルブ TS式製品取り扱い使用上の注意

VP600TS(ねじ)・VP666TS(ねじ)・VP911TS(ねじ)

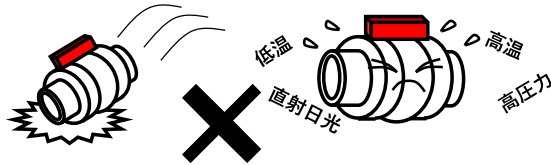
211026-01

◎作業する前に本紙をよく読んで施工を行なってください。



運搬及び保管上の注意

- 1 運搬時に製品の引きずり、落下、投げ出し等は行わないで下さい。
- 2 配管施工まで梱包したままで直射日光を避け、高温多湿にならない屋内冷暗所に保管して下さい。
特にゴムやPP製品は紫外線により劣化し易いので保管状態に注意願います。
- 3 保管が長期に渡った場合、必ずバルブの開閉作動を数回行い、作動をなじませてからお使い下さい。
特に寒い時期には、バルブを冷たい状態で動かさないようにご注意ください。破損の原因となります。



ご使用上の注意

- 1 製品に過度の荷重、衝撃等を加えるとクラックや変形の原因になります。
- 2 ご使用温度及び圧力は許容範囲内でご使用下さい。またマイナス温度の流体や凍結が予測される場所でのご使用は避けて下さい。
- 3 プラスチック製品は、温度が上がると強度が低下する性質があります。温度と圧力の関係を参照の上、ご使用願います。
- 4 薬液によっては製品が侵され漏れの原因及び破損することもあります。適切な材質を選定して下さい。
- 5 本製品はプラスチック製です。金属製品と異なり配管の負荷や、脈動、水撃圧には短期的に耐えても、長期の使用にはクリープ現象等が発生し、変形、破損に至る場合があります。
本製品に影響を与えないような配管設計施工をお願い致します。
- 6 耐薬品性能表を記載しておりますが、この表はあくまでも参考値です。使用前に必ずご確認ください。
- 7 本製品は異物、スラリーを含んだ流体には使えません。
温泉等でお使いの場合、その成分の一部がバルブのボール等に付着し固化する場合があります。
付着固化した状態でハンドルを開閉しますと、破損又は漏れの原因となります。
- 8 次亜塩素酸ナトリウム、過酸化水素等をお使いの場合、圧力が上昇しバルブを破壊する場合があります。
- 9 バルブを半開状態でご使用されますと、シートシールが剥離する場合があります。
バルブは全閉位置もしくは全開位置でお使い下さい。
- 10 火器や高温な物体に接近させないでください。変形や破損、火災の恐れがあります。
- 11 常時水や粉じんなどが飛び散る場所、および直射日光の当たる場合は避けるか、
又は全体を覆うカバーを設けてください。(バルブが正常に作動しなくなります)

配管設計及び施工上の注意

- 1 袋ナットを緩める場合は、ベルトレンチをご使用ください。
その際、Oリングの脱落、異物付着等には十分にご注意願います。
- 2 バルブは、本体表示の矢印に流れ方向を合わせて配管して下さい。
- 3 配管施工の前には必ずパイプ内の切粉、塵等を取り除いて下さい。
- 4 一次側と二次側配管芯の合わせと、平行度を正確に合わせて下さい。
合わない場合バルブに負担が掛かり、漏れや破損の原因となります。
- 5 バルブを配管する前には必ず開閉作動を数回行い、異物の噛み込みがなく、開閉作動が円滑であることを確認して下さい。(手を挟まないようにご注意ください)
- 6 運転開始当初においては、配管全体の振動発生状態や、バルブ本体の状態を確認願ひ、
取り付けボルトの増し締めやハンドルを開閉し、開閉作動をなじませて下さい。
- 7 鋼管との接続の場合、配管芯を合わせバルブに荷重をかけないようにして下さい。
製品の引張破壊強度は鋼管と比較するとPVCの場合、1/8程度、PPは1/20程度であるため
バルブ本体に配管加重等の過度の荷重が加わると破損する恐れがあります。
- 8 TS接合の場合、ポールシール面に接着剤の垂れ込み附着がないように注意して下さい。
外気温5℃以下での接着作業ではソルベントクラックが発生する原因となります。ご注意ください。
- 9 ねじ接合の場合は必ずシールテープを使って下さい。
液状ガスケットを使用すると有機溶剤が、材質を侵し異臭や破損の原因に繋がります。
接合は樹脂製のバルブソケットを使用下さい。金属ねじとの接合は避けて下さい。